

添毛織物(ベルベット)に対する反射特性

文化女大家政 ○成瀬信子 加藤玲子

目的 織物表面の光反射特性を調べているが、添毛織物は表面が細かい毛羽でお、われているため、その反射パターンは異なると思われる。そこで一般織物と、添毛織物との光反射特性に対する差異を比較検討した。

方法 試験布としてはレーヨン100%のベルベットの添毛織物を用いた。比較の織物としてはアセテートサテンのフィラメント織物を用いた。反射特性は色によつて異なるという結果を得ているので、ベルベットとアセテートサテンがなるべく同じ16種の色合いのものを、それぞれ試験布とした。

測色により色を求めた。また、二次元反射光分布曲線を偏光子を用いて、表面一次反射光と拡散反射光とに分離した。それぞれ色の差による反射パターンの差が、添毛織物とフィラメント織物では異なり、その理由に対する検討を行った。また、視覚的なつやの大きさとの対応も見た。

結果 アセテートサテンの方がベルベットより色による一次表面反射光と拡散反射光による反射エネルギーの大きさの比の差がある。ベルベットは正反射角での反射光量は、いずれの色についても受光角 81° ~ 84° 付近の最大反射光量よりかなり小さい。

また、視覚的なつやの大きさは、ベルベットとアセテートサテンでは全く色に対する傾向は異なり、これらと反射特性との対応を検討した。